

大原社会問題研究所五十年史

III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

『大原社会問題研究所雑誌』第一号の発刊

一九二三年 大正一二年 一九二三年二月一七日の委員会(出席者は高野、櫛田、久留間、権田氏)で、滞欧中の森戸研究員を委員とすることが可決された。この当時、研究所の人事、事業等全てのことは毎週開かれる委員会で決定され、とくに重要事項は東京の所員会にもはかり、研究所は民主的に運営される機構をもっていた。ちなみに、年一回、総会または協議会を開催し、大阪、東京の全所員の主だったメンバーが参集し、重要事項を協議し決定することになっていたのである。

三月一日には高田慎吾氏が留学渡欧の途につき、八月には森戸氏が、ついで一〇月には大内氏が帰朝した。またこの年の春をもって高野所長は東大の講師をも辞任し、二〇年におよぶ教壇生活と訣別し、文字通り大原研究所の経営に専念することとなった。

研究所がその機関雑誌を持って研究調査の成果を公開するという計画は、すでに一九二一年六月一七日の協議会で決定され、大体年四回、「社会問題」なる題名で刊行することまで内定したのであったが、種々なる事情で延びのびとなり約二カ年を経過したのである。しかしこの計画もようやく実現の機が熟し、五月一二日の委員会では次の通り決定を見た、一

- (一)雑誌の名称は『大原社会問題研究所雑誌』とし、発行所は同人社、名義人は大島秀雄氏とすること。
- (二)七月に第一号を発行すること。
- (三)河上肇氏に研究嘱託として雑誌編集に参画されるよう勧誘すること。

河上氏の嘱託就任はついに実現しなかったけれども、そして発行日も右の決定より約一カ月おくれたけれども、雑誌第一号は八月七日に出来上り、高野所長はじめ所員はその誕生を喜び祝福した。第一号の内容はつぎのようである。

『大原社会問題研究所雑誌』第一号目次

アドルフ・ケトレーと唯物論的見解	高野岩三郎
唯物史観に於ける「生産」及「生産方法」	櫛田民蔵
ドイツ社会党合同問題と其背景	森戸辰男
東京市に於ける労働者家計の一模型	権田保之助
古典派、俗流、歴史派及マルクス派経済学(ローザ・ルクセンブルグ)	久留間鮫造
大阪市公園利用状態調査	大林宗嗣
ユダヤ人問題(カール・マルクス)	細川嘉六
アダム・スミス生誕二百年	久留間鮫造
スミス関係図書目録	

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

